令和５年度 兵庫県立吉川高等学校 学校自己評価　　【結果】

スクール・ミッション			
「能力の開発善用」の理念のもと、学び続ける力、未来を描く力、自らを律する力、他者とつながる力を 備え、地域社会と将来世代に貢献できる人材を育成する。			
グラデュエーション・ポリシー	①　基礎学力を身に付け、潜在可能性の開花のために学び続けることができる生徒を育成する。 ②　自己の感情を律する力を持ち、「ちがい」を認め合うことができる生徒を育成する。 ③　自らが立てた志を得るため、失敗を恐れず努力・挑戦することができる生徒を育成する。 ④　他者と協力・協働し、困った時は適切に助けを求めることができる生徒を育成する。 ⑤　地域を愛し、地域社会と将来世代に貢献することができる生徒を育成する。	カリキュラム・ポリシー	①　個に応じた指導、少人数授業、義務教育段階の学習内容の「学び直し」の充実を図る。 ②　特別活動等を含む全ての教育活動で、自己有用感や規範意識を育む学びを展開する。 ③　多様な進路希望に応えられる類型を設置し、興味・関心に対応した選択科目を設定する。 ④　支援の必要な生徒の実態を把握、サポート体制を整え、支援プログラムを実施する。 ⑤　地域の課題に係る探究活動や、異年齢との交流・連携事業等による学びを展開する。

≪実践目標（指標）の達成状況≫　４：よくできている　３：できている　２：あまりできていない　１：できていない

領域等		評価の観点		評価項目	実践目標（指標）	平均	評価
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	学校Webサイト(ホームページ)の更新、学校・学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	2.7	B
			2	地域や関係機関と連携した愛される学校づくり	近隣住民との積極的な交流を図るとともに、こども園・小学校・中学校・大学等との連携を充実させる。	2.9	B
		生徒指導	3	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	生徒支援の観点からの生徒指導、並びに時代に即した生徒指導(服装・頭髪、特別指導等)の在り方について研究し、実践する。	2.3	C
			4	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談やアンケート等を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	2.6	B
		進路指導	5	進路指導体制の充実	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	2.5	B
			6	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	インターンシップや進路ガイダンス等を通して、生徒に自己の「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	2.7	B
		教職員の資質向上	7	計画性を持った研修の実施と実践的指導力の向上	年間行事計画に多彩な職員研修会を位置づけ、同僚性が高く、学び合い、高め合える教職員集団をめざす。	2.1	C
		危機管理体制の整備	8	実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、日頃から危機発生時の初期対応を意識しておく。	2.4	C
	選択項目	学校運営全般	9	校務分掌と協働体制の確立	スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	2.3	C
			10	働きがいのある学校づくり	自身のワーク・ライフ・バランスと、生徒と向き合う時間の確保を意識し、業務の在り方と勤務時間について見直しを行う。	1.8	D
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	11	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業の最初に生徒目線の「めあて」を示すとともに、最後に「振り返り」の時間を確保する。	2.8	B
		基礎・基本の定着	12	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	「学び直し」の充実、効果的なICT活用、及び授業担当者・学年・学級担任の連携により、「誰一人取り残すことのない」きめ細かな指導に努める。	2.4	C
		総合的な探究の時間	13	創意工夫を生かした実践の展開	社会的・職業的に自立し、自分らしい生き方ができるよう、将来設計をする力、夢を描き挑戦する力の育成に努める。	2.5	B
		個に応じた学習指導の徹底	14	評価方法の創意工夫	観点別学習状況評価の在り方、及び指導と評価の一体化に係る研修に励むとともに、授業改善のための研究授業等を実施する。	2.4	C
	選択項目	特別活動（学校行事等）	15	自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	2.6	B
課題教育	共通項目	防災・安全教育	16	防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講等により、教職員の意識と技能を高める。	2.8	B
		人権教育	17	人権教育推進体制の充実	生徒の発達段階や関心に応じた人権課題・人権教育に、LHRだけでなく教育活動全般を通して計画的に取り組む。	2.4	C
	選択項目	情報教育	18	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	2.4	C
	独自項目	学校の個性化・多様化	19	高校生心のサポートシステムの取組推進（重層的な生徒支援・生徒指導）	特別な配慮や支援を必要とする生徒の特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を行う。	2.8	B
			20		「いじめ未然防止プログラム」を活用したホームルーム活動や各種体験活動を充実させ、生徒の自己有用感に裏付けられた自尊感情を育成する。	2.5	B